

事業コード	H20-建-継-11		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(雪寒)		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	凍雪害防止(堆雪幅確保)		班 名	道路環境班 (tel) 018-860-2494
路線名等	国道108号		担当課長名	小嶋 宣英
箇所名	湯沢市秋ノ宮 造石		担当者名	主幹(兼)班長 佐々木 勇
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	01	施策名	四季を通じて快適な生活環境の確保
	指標コード	04	施策目標(指標)名	消・融雪施設等整備率

1. 事業の概要

事業期間	H16 ~ H23 (8年)		総事業費	6.4億円	国庫補助率	6.0/10	
事業規模	延長 L=1,000m、幅員 W=6.0(10.0)m						
事業の立案に至る背景	一般国道108号は、宮城県石巻市から湯沢市秋ノ宮を経由して由利本荘市へと至る幹線道路である。鬼首道路開通後は通年通行が可能となり、宮城県と秋田県の物流及び観光道路として交通量が増大している。当該区間は緊急輸送路でありかつ冬期観光施設へのアクセス区間であるため、冬期における安全で安心できる道路整備が求められており、四季を通じ誰もが快適で利便性の高い道路環境の整備を実施する。						
事業目的	冬期間における道路空間の確保 危機管理の充実(第1次緊急輸送路) 冬期観光へのアクセス向上						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	634,000	634,000	0			
	経費内訳	工事費	555,170	555,170	0		
		用補費	39,621	39,621	0		
		その他	39,209	39,209	0		
	財源内訳	国庫補助	380,400	380,400	0		
		県債	240,920	240,920	0		
その他		0	0	0			
一般財源		12,680	12,680	0			
事業内容	調査・設計、改良工、舗装工	調査・設計、改良工、舗装工					
事業の進捗状況	調査・設計業務は完了している。用地取得は平成19年度末まで99%の進捗である。平成17年度にL=140m供用し、平成18年度に更にL=160m供用済み(30.0%供用)である。残りのL=700m区間は平成21年度にL=380mを供用、平成23年度にL=320m供用による完成にむけ工事進捗中である。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21総合計画における施策「快適で安全な生活を支える環境づくり」を支援する事業						
情勢の変化及び長期継続の理由	四季を通じた快適な生活環境を形成するには、幹線道路の冬期交通確保は必要不可欠 平成17年3月22日 旧雄勝町周辺の市町村と合併して湯沢市となった 観光課で実施した平成18年度「秋田の旅イメージアップ宣伝広告事業」及び平成19年度「秋田の顔宣伝広告事業」で秋の宮温泉郷が選定されている						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	県管理国道改良率					
	指標式	改良率(改良済延長/実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	91.4 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	92.7 %					
達成率 b/a	101.4 %		把握の時期	平成20年4月			

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	・特になし			
	指摘事項への対応			
・特になし				

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点		
必 要 性	観光課で実施した平成18年度「秋田の旅イメージアップ宣伝広告事業」及び平成19年度「秋田の顔宣伝広告事業」で秋の宮温泉郷が選定され県外からの観光客増加が期待されている。 隣県との物流に重要な路線であり、近年交通量が増加している。	5点		
緊 急 性	第1次緊急輸送道路に指定されている。 国道道路改築(畑工区)等により前後が拡幅済みである状況に比べ、当該区間が狭隘であり事故の発生が懸念される。 特殊改良一種事業と一体となり秋の宮区間L=11,130mの道路拡幅を進めている。	15点		
有 効 性	秋の宮地区から雄勝中央病院や湯沢横手道路雄勝ICへのアクセス道路である。 秋の宮温泉郷がある。 通学路に指定されている。 堆雪帯の確保はあきた21総合計画に策定されている「快適で安全な生活を支える環境づくり」の中核事業である。	25点		
効 率 性	軟弱地盤について運搬処理の距離が長くなることからコスト削減のため地盤改良工を採用している。 橋梁をコスト面で優位な函渠に見直した。 平成17年度交通量が平成11年度交通量より確実に伸びている。 (2,053台/日 1,664台/日)	18点		
熟 度	用地取得率が約99%であり、地元の協力体制、関係機関との協議及び調整は順調である。 法面緑化に在来種を用いることで周辺の生態系に配慮した。	23点		
判 定	ランク () 「緊急性」、「有効性」、「効率性」、「熟度」が特に高く、引き続き実施すべき事業である。	86点		
総 合 評 価	継続	改善して継続	見直し	中止
	事業継続は妥当である。			

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

当該事業の施工にあたっては、整備計画を踏まえ、着実に推進するとともに引き続きコスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 凍雪害防止事業(堆雪帯)

事業コード(H20-建-継-11)
箇所名 (湯沢市秋ノ宮 造石)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	事業の必要性					
	県民ニーズ	一般県民を対象とした調査でニーズが高い 一般県民を対象とした調査でニーズを把握 一般県民を対象とした調査を行っていない	5 3 0	0		
	社会情勢変化による需要変化	増大している 特に変化はない 低下している	5 3 0	5		
	計		10	5		
	緊急性	緊急輸送道路又は緊急確保路線				
		指定路線である 指定路線を補完する 指定路線と関連がない	5 3 0	5		
	事業未実施の影響	周辺への影響等が大きい 周辺への影響等が小さい	5 0	5		
	他事業との関連	関連事業との調整で緊急性が高い 関連事業との調整で緊急性が低い	5 0	5		
	計		15	15		
	有効性	期待される具体的効果				
	緊急医療施設へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補完する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	5		
	高速IC、空港、港湾等へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補完する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	5		
	冬期観光施設へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補完する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	5		
	積雪時の交通安全性	地域の冬期交通円滑化、安全性向上 安全性はさほど向上しない	5 0	5		
	上位計画への貢献度					
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 0	5		
	市町村合併関連	市町村合併の推進に貢献する 市町村合併の推進には特に影響しない	5 0	0		
	計		30	25		
	効率性	事業実施コストの縮減				
		該当項目数	3項目以上 2項目 無し又は1項目	5 3 0	3	
当初計画事業費との比較		減少又は10%未満の増加 10%以上30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 0	5		
交通量		1,000台/日以上 500台/日以上?1,000台/日未満 300台/日以上?500台/日未満 300台/日未満	10 7 4 0	10		
計			20	18		
熟度		事業の推進				
	地元の協力体制	事業に協力的で要望書等が提出されている 事業に協力的であるが要望書等は未提出 要望書が未提出で用地の反対がある	5 3 0	5		
	関係機関との協議・調整	基本事項が合意済み 協議中であるが特に問題はない 未協議	5 3 0	5		
	事業の進捗状況					
	進捗率	計画より進捗している 概ね進捗(90?100%未満) 計画より遅れている(90%未満)	5 3 1	3		
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 将来的な課題はあるが当面進捗に影響がない 課題解決の見込みがなく事業が停滞する	5 3 0	5		
	環境との調和					
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で、検討している 特に配慮はない	5 3 0	5		
	計		25	23		
	合計			100	86	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		